

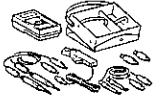

E-G X71系

P.V.A店

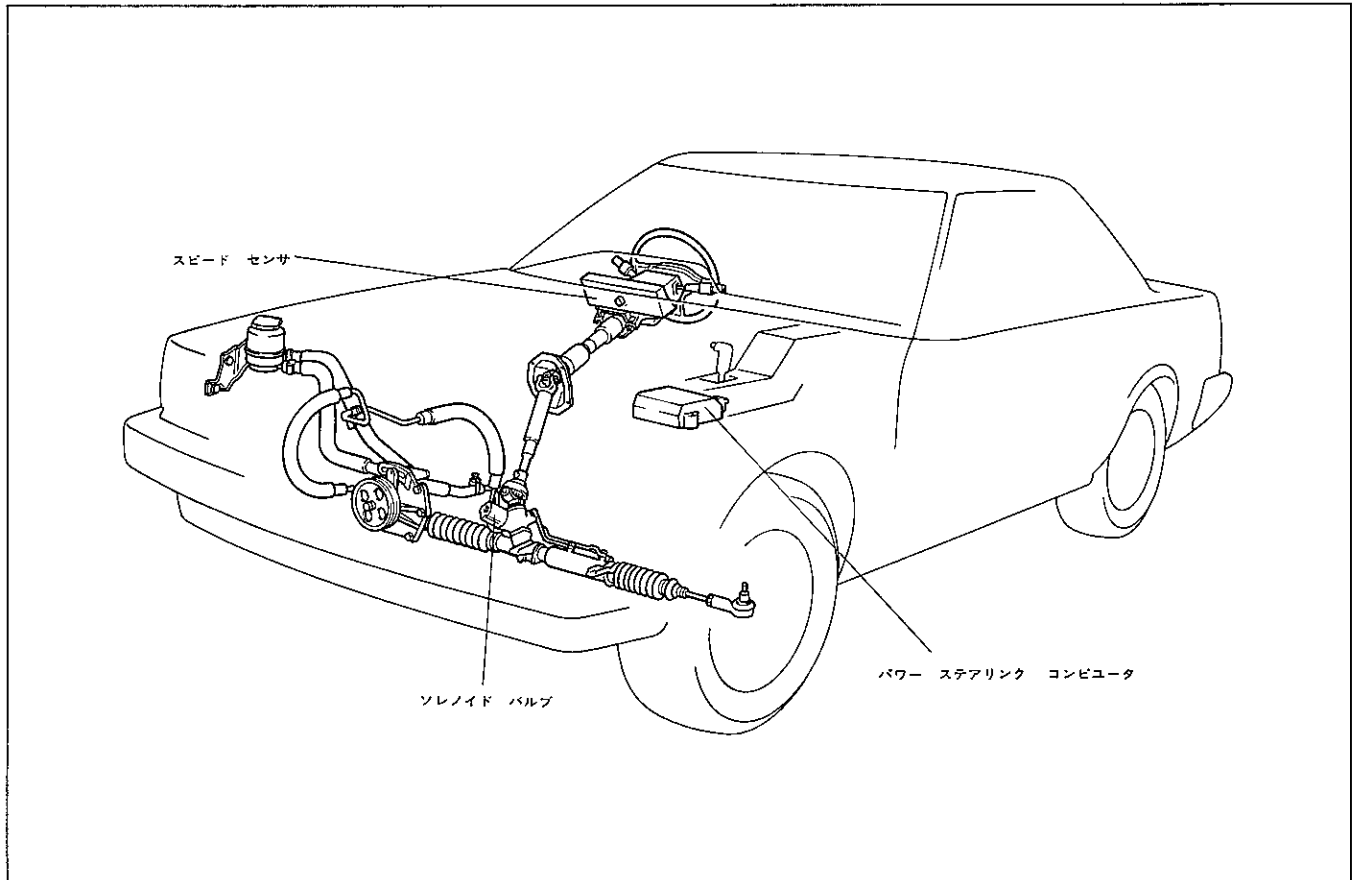
標 題 トヨタ マークII, チェイサー, クレスタ修理書/追補版内容追加のお知らせ

トヨタ マークII, チェイサー, クレスタ修理書/追補版(昭和60年10月発行 品番62092)に1モードプログレッシブ パワー ステアリングの電気的 コントロールの整備要領を追加します。

**1モード プログレッシブ
パワー ステアリング
電気的 コントロール
準 備 品**

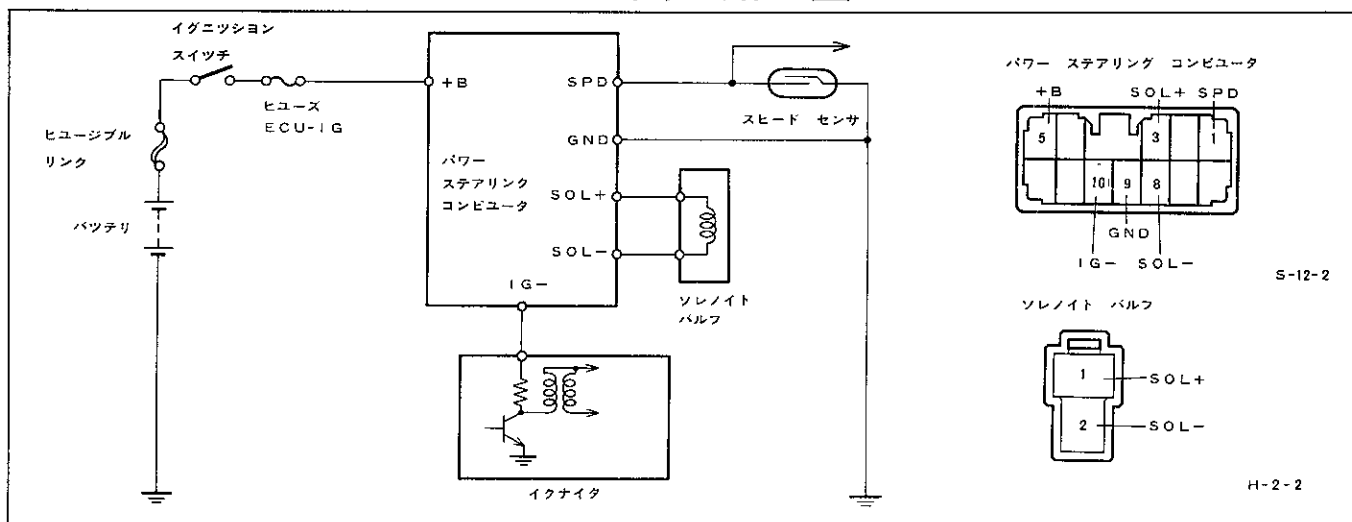
計 器		09082-00012 テスタ, トヨタ エレクトリカル	各部点検用
		09083-00060 ミニ テスト リード	コンピュータ点検用

部品配置図



X 00013

回路図



X D 0008

トラブル シューテイング

トラブル シューテイングの進め方

1 コンピュータ接続点検

- (1) ハワー ステアリング コンピュータが車両に正常に取り付けられているか点検する。
- (2) ハワー ステアリング コンピュータと車両側ハーネスが完全に接続されているか点検する。
- (3) コネクタを接続した状態で各端子とホテアース間の電圧および導通を点検する。

2 バッテリ点検

- (1) バッテリの電圧を点検する。

基準値 10~14 V (エンジン停止時)

注意 バッテリ電圧が低いと誤診断のおそれがある。

3 車上点検

- (1) 車上点検を行い不具合現象を確認する。

注意 ステアリング操作力が重い場合は事前に次の点検を行う。

- ・タイヤ サイズの違いおよび空気圧の点検
- ・フロント ホイール アライメントの点検
- ・パワー ステアリング フルードの量の点検
- ・サスペンション関係のホール ジョイントの点検

- (2) (1)の結果をもとにチャート指示に従って点検する。

4 フロー チャートの見方

.....作業する項目

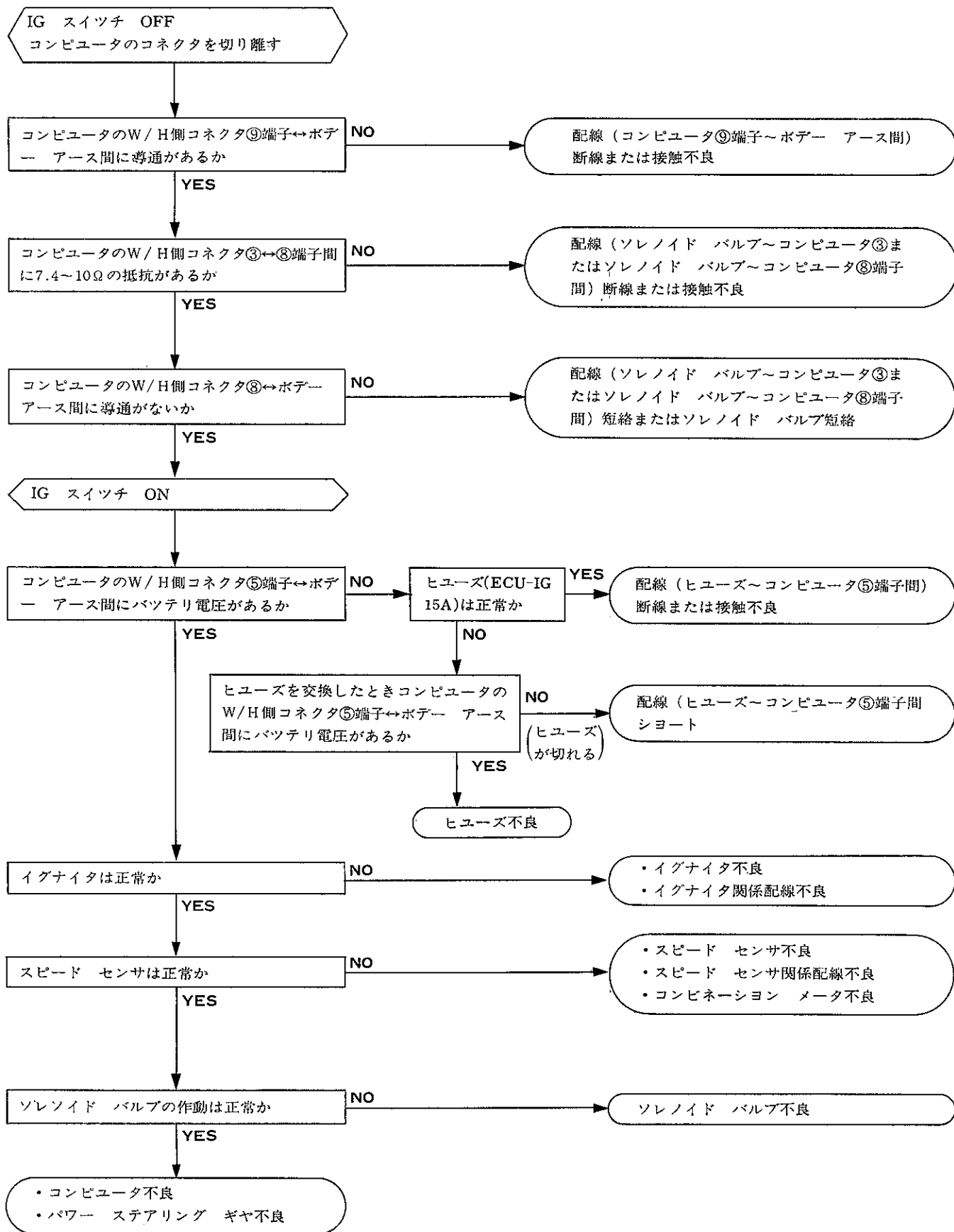
.....点検する項目

- ・条件の記入のない項目はイグニッションスイッチ ONで行う。
- ・コンピュータなどの端子記号は回路図による。

.....不具合要因

- ・ワイヤ ハーネス系も含む。

全 般

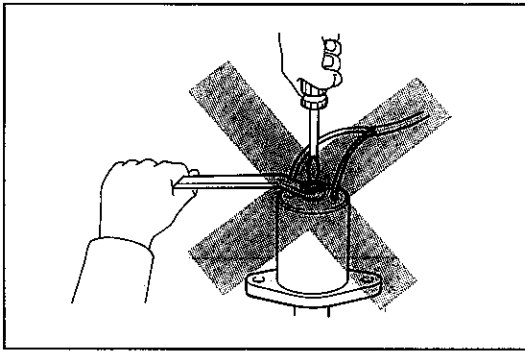


単体点検

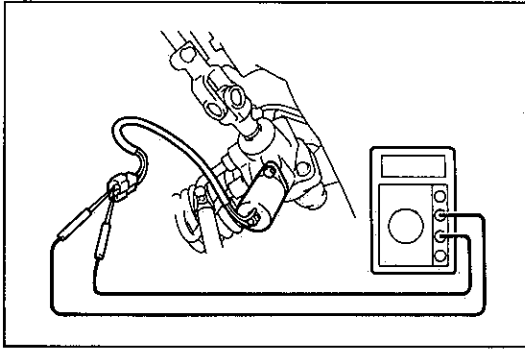
プログレッシブ パワー ステアリング点検

1 ソレノイド バルブ点検

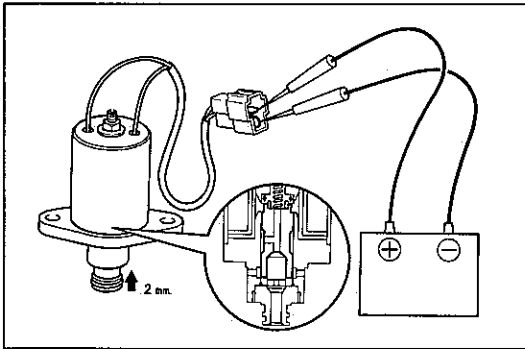
注意 ソレノイド バルブのアジャスティング スクリュー ロック ナットにさわらない。(調整不可)



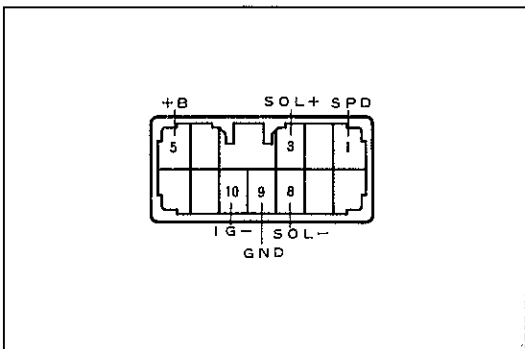
E1970



D0987



B8582



S-12-2

車上山検

- (1) ソレノイド バルブのコネクタを取りはずす。
- (2) コネクタ端子間の抵抗を測定する。
基準値 7.4~8.0Ω
- (3) ソレノイド バルブ ケース↔コネクタ端子間の抵抗を測定する。
基準値 1MΩ以上
- (4) ソレノイド バルブのコネクタを取り付ける。

単体点検

- (1) ソレノイド バルブにバッテリー電圧をかけたとき、ニードルバルブが約2mm引つ込むことを点検する。
注意 ・ソレノイド バルブへの通電時間は、コイルの焼損防止のため30秒以内で行う。
・再度通電するときはソレノイド バルブを手でさわられるくらいまで冷えてから行う。

2 コンピュータ点検

- (1) バッテリー電圧を点検する。
基準値 10~14V (エンジン停止時)
- (2) 車両をスピードメータ テスタにセットする。
注意 車両の固定を確実にを行う。
- (3) テスタにミニ テスト リードを接続して、コンピュータ各端子とボデー アース間の電圧および導通を点検する。
注意 コネクタをコンピュータに接続した状態で、コネクタの裏側からミニ テスト リードで点検する。

基準

端子番号	端子記号	入出力	レンジ	測定条件	基準	基準外の場合の不具合箇所
1	SPD	入力	D C	IG スイッチ ON, ゆっくり走行	1V以下~5V以上で変化	スピード センサ
5	+B	入力	D C	IG スイッチ ON	10~14V	電源
8	SOL-	出力	D C	車速60km/h時	0.1~0.2V	コンピュータ
				シフト レバー ニュートラル, エンジン回転数3000rpm	0.35~0.45V	
9	GND	入力	導通	常時	導通あり	ボデー アース
10	IG-	入力	D C	IG スイッチ ON	9V以上	イグナイタ